自主的な学びのグループに参加して

金子深雪　徳永真美　戸田千晴　木田真衣子　渡邊優　加藤育世
（愛媛大学法文学部　まちメカ）
e-mail:machimeka@yahoo.co.jp

１　まちメカの紹介

私たちまちメカは、一年前に商店街で夜店を開いたことをきっかけに結成された学生サークルである。まちメカの由来は、まちを maker する人、また matchmaker、つまり仲介人という二つの意味があり、そのコンセプトとしては、学生による実験的なアクティビティを通じてまちづくりのデザインやメカニズムを考えていこうということである。

活動の目標として三つあげると、まず生きた社会の動きを肌で感じ、どのような課題を抱えながら日々の営みが行われているのかを知ること。次に、企画能力を養成し、責任感を身に着けること。最後に、町や地域に生きる人との交流を通して、コミュニケーション能力を向上させるとともに、学ぶことの意味や楽しさを実感することである。

活動内容は大まかに言うと「まちづくりに関する勉強とそのための活動」で、本年度は商店街の活性化を中心に勉強してきた。これまでの活動を挙げると、まずきっかけとなった地元の商店街の祭に出店を出し、商店街の人々や地元住民と触れ合うよい機会となった。また、大学構内での町内盆踊り大会でも出店を出し、地域内のつながりの大切さを実感することができた。学生祭では、都市研究者の矢作弘氏を招いての講演会とシンポジウムを行い、この活動を通して他の学生団体と情報交換や、交流を深めることができた。さらに、月に一、二回勉強会を開き、まちづくりについての基本的な知識を学びながら、意見を出し合い議論するなどの活動を行っている。

今年の春休みは京都の伏見・西新道、滋賀の長浜商店街にフィールドワークを行った。

その詳しい研究内容は大会当日に報告することとし、以下においては商店街や地域の活性化に関する、私たちなりの仮説のみを提示しておくことにする。

２　商店街と地域活性化に関する仮説

今日、全国的に商店街の衰退が深刻な社会問題となっている。私たちまちメカはそのような中で商店街が活性化に成功した滋賀県長浜町と京都市西新道商店街にフィールドワークを行い、その成功要因について検討した。滋賀県の長浜町は、商店街活性化のモデルケースとして全国的に非常に有名である。長浜町の特徴は、既存の商店街主ではなく外部の新しい力によって、伝統的な商店街としてではなく、どちらかといえば観光地として再生されたことにある。これに対し、京都市の西新道は既存の商店主を中心に、伝統的な地域密着型の商店街として再生された。

このように、同じく商店街の活性化・再生といっても、長浜町と西新道においては活性化の担い手と目指すべき方向において大きく異なっている。しかしそれでも、商店街の活性化に成功した限り、両事例においては共通の成功要因があるはずである。1つの成功事例からのみ教訓を引き出すならば、過度の一般化の危険をまぬがれないだろう。例えば、長浜町の事例からのみ教訓を引き出すならば、商店街の活性化は外部からの新しい力なしには不可能であるという結論が引き出されることになる。しかし、西新道の商店街はそうではない。

私たちの研究目的は、一見相反する事例を取り上げ、その相違点を確認しつつも、両者に共通した成功要因を明らかにすることにある。

ここでは、共通の成功要因に関する、私たちなりの仮説を指示しておきたい。両事例のみならず、広く地域の活性化に成功したケースにおいては、しばしばキーパーソンと呼ばれるリーダーが極めて大きな役割を発揮している。

一般的に地域が継続的に発展していくためには、

二つの要因が必要だと考えられる。第一は、同一地域に住む人々の親密な共同関係である。人々が同じ目的に向かって協力・共同するためには、共通の生活体験が必要である。そのためには、いくらネットワーク技術が発展しても、生活を共にする場が必要不可欠である。しかし、親密な共同関係だけでは新しいアイデアや刺激、エネルギーが地域に入ってこないため、そのような地域は停滞せざるを得ない。したがって第二には、外部からのエネルギー（情報・アイデア・刺激）の流入が必要である。

戦後の日本においては、商店街を始めとする多くの地域において、共通の生活体験を育む基盤が急速に失われてきた。そのような状況の中で、商店街や地域の再生を図るためには、親密な共同関係を再構築しながら、しかも外部からエネルギーを流入する必要がある。このニつの役割を果たしているのがキーパーソンと呼ばれている人々であり、極めて大きいリーダーシップが求められている。現在は情報ネットワークの時代であり、情報を外部から得ることはたやすくなっている。しかし、商店街や地域を再生していくためには、リアルな人と人とのネットワークが必要であり、それを再構築するのは容易ではなく、そのためキーパーソンと呼ばれるリーダーが極めて大きな役割を発揮していると考えられる。

しかし、キーパーソンに過度に依存した地域の再活性化には大きな限界があるように思える。というのは、たまたま地域にリーダーとなり得る人物がいた地域は活性化でき、不運にもリーダーに恵まれなかった地域は活性化できないということになるからである。本報告においては、キーパーソンに過度に依存せざるをえない、現在の商店街や地域のありようも問題にすることにしたい。

３　まちメカに参加して

まちメカはサークル活動であり、当然のこととしてその活動は授業時間外である。しかし、皆がアルバイトなどに忙しく、なかなか集まる時間がとれず、活動するのはいつも土曜の朝とか平日の夜になってしまう。それでも、皆が活動することをやめず、時間を合わせて参加したのは、それだけこのサークルに魅力があったからだ。

普通の授業では教員の一方通行的な話で終わってしまう。ただ教員の話を聞くだけで時間が過ぎ、自分の意見を言う機会はほとんどない。それに対し、このサークルでは主役が生徒である。短い時間の中で、自分の意見を思う存分言うことができ、さらに仲間の意見も聞く。このサークルを始めた当初は、なかなか発言出来なかったりしたこともあったが、今では活発に討論している。いつの間にか自ら発言することが出来るようになったし、仲間の意見もしっかりと聞くことが出来るようになった。「聞く」ことで、新たな発見があり、自分の考えも広がっていく。聞くことの大切さを知った。

また、フィールドワークを多く活用している点も魅力である。直接その場に行って、人と会い、現地の生の声を聞く。文献を読んで討論するだけではわからないことが、実際現地に行くことで得られることがある。今回フィールドワークを行った西新道・長浜でも、そこで人々の生き生きと活動する姿を見て、本当に商店街、まちを大切に思う気持ちが伝わってきた。普段の授業ではできないことを、このサークルで体験し、多くのことを得てきたのだ。

私たちは、身近な商店街に目を向け、自ら積極的に参加し、文献を読んで討論することはもちろん、フィールドワークを取り入れ楽しく活動してきた。その中で、多く事を学びさまざまなことを得てきた。これからこのサークルを発展させながら、自分自身も成長していく場としたい。